

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	高津区第3グループ(末長・子母口・梶ヶ谷)	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	子ども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H28		H29		H28		H29	
	1 末長こども文化センター ①年間延べ利用者数	45,667人	44,843人	②年間延べ利用団体数	407団体	411団体		
2 末長小学校わくわくプラザ ①登録者数	548人	566人	②年間延べ利用者数	29,284人	34,901人			
3 新作小学校わくわくプラザ ①登録者数	269人	254人	②年間延べ利用者数	13,413人	15,473人			
4 橋小学校わくわくプラザ ①登録者数	371人	362人	②年間延べ利用者数	25,492人	25,690人			
1 子母口こども文化センター ①年間延べ利用者数	33,970人	36,130人	②年間延べ利用団体数	422団体	430団体			
2 久末小学校わくわくプラザ ①登録者数	390人	390人	②年間延べ利用者数	24,298人	23,836人			
3 子母口小学校わくわくプラザ ①登録者数	378人	436人	②年間延べ利用者数	23,354人	28,478人			
1 梶ヶ谷こども文化センター ①年間延べ利用者数	26,350人	26,410人	②年間延べ利用団体数	319団体	315団体			
2 梶ヶ谷小学校わくわくプラザ ①登録者数	399人	426人	②年間延べ利用者数	22,750人	23,743人			
3 西梶ヶ谷小学校わくわくプラザ ①登録者数	316人	321人	②年間延べ利用者数	22,988人	24,792人			
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 181,558,462 2 支出 人件費 159,888,679 管理費 11,096,276 事務経費 8,788,492 その他経費 10,056,570 合計 189,830,017 3 差引 -8,271,555							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・末長こども文化センター及び管轄わくわくプラザでは、新たな取組として、わくわくプラザの交流を目的として、橋小学校の体育館で、管轄する3カ所のわくわくプラザの利用児童が一堂に会してゲーム集会を実施した。ボーイスカウト活動等を経験した遊びの講師を招き、工作や人気ゲームなどを行い、各わくわくプラザ間の交流や異年齢交流が促進された。 ・子母口こども文化センターでは、新たな取組として、「大型玩具の日」として、集会室に、新しく購入したジャングルジム付滑り台等の玩具を設置した。幼児親子59名が参加し、迷路やボールプール等で遊びながら、地域を超えて、親子同士の交流が図られた。 ・西梶ヶ谷小学校わくわくプラザでは、ダンスクラブの活動が地域に貢献できるよう、こすぎ舞祭や地域教育会議主催の「あつたかまつり」等、積極的に地域行事へ参加しており、地域の交流を通して、児童の健全育成に寄与している。 ・こうした取組の結果、全体の利用者数が、昨年度と比較し、約1400人増加した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	4	4	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通じて、利用者ニーズ把握に努め、購入図書や選定や集会室ルール改訂等、施設運営に反映している。 ・学校及び行政機関との連携について、学校及び行政機関の他、障害者施設くさぶえの家や老人いこの家など、様々な主体と連携した取組がなされている。特に、子母口こども文化センターでは、会議の主催者として、高津区役所、高津区社会福祉協議会、地域と連携会議を定期的に開催し、「1dayカフェ 冬の野菜」や「端午の節句飾りづくり」等、多世代交流事業を10回実施した。 ・施設・事業の広報については、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。また、中高生よりなどの対象年齢を捉えた広報を行うとともに、今年度新たにこども文化センターだよりを子母口老人いこの家にも配架して、多世代連携の促進に繋げた。 ・保護者懇談会の実施について、懇談会が定期的に開催され、保護者の要望を把握している。開催にあたっては、多くの保護者が参加出来るように日程や時間を調整して開催した。また、梶ヶ谷小わくわくプラザでは、保護者懇談会の中で出た要望に応え、長期休みのカレーランチを1回から3回に増やすなど、保護者意見を反映している。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8	
	職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。				
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。</li> <li>・職員の研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修が行われていた。また、研修内容を印刷・ファインリングしたものを、受講していない職員・臨時職員に回覧できるようにしていた。特に、グループ研修として、「野外活動研修」を実施し、飯ごう炊飯やレクリエーション等を学び、「ともだち倍増計画・サマーデイキャンプ2017」の実施に活かした。</li> <li>・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。</li> </ul>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。</li> <li>・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、実際の事故やヒヤリハット事例をもとに法人本部で「事例検討シート」を年2回作成し、館長会議、各館での職員会議、スタッフ会議と三階層において議論を重ね、そこで得られた対応策を集約して共有するなど、職員等の資質向上を図っている。また、職員ミーティング、スタッフ会議において、施設で起こり得る危険な状況を議論を重ね、対応策が職員間で共有されている。</li> <li>・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。特に橋小学校わくわくプラザでは、裏門が開いており、誰でも入れる状況にあるため、外部から外トイレを利用する人がいることから、高津警察署協力の下、不審者対応研修を実施するほか、年に数回町会・学校と連携し、地域のパトロールに参加している。また、末長子ども文化センターでは、館長が小学校区避難所設置運営委員会に、総務部委員として参画し、設置会議や設置訓練に参加している等、地域団体や警察等と連携し、防犯・防災対策に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。</li> <li>・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。</li> </ul>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

指定管理者制度導入以前の管理委託時代から、子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営を行っていた長年の経験を活かし、法人本部を中心に、全市規模、区規模の合同行事や様々な職員研修が体系的に実施されており、それらの取組により、良質かつ均質なサービスの提供が行われている。各館においても、子母口子ども文化センターでは、老人いこいの家との合築である強みを活かし、様々な多世代交流行事を実施し、末長子ども文化センターでは、合築施設である障害者施設くさぶさの家との合同でのまつりを長年にわたり開催するなど、それぞれ館の特徴に応じた独自の取組が行われている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子ども顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。